

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190200418		
法人名	株式会社 トゥルーケアー		
事業所名	グループホームひなげし		
所在地	埼玉県川口市東川口1-12-24		
自己評価作成日	平成23年9月27日	評価結果市町村受理日	平成24年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成23年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本位で、その人らしく生き生き暮らせるように支援している。  
笑顔のある明るいグループホームを目指している。  
家族・地域とのつながりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者主体と寄り添う心と笑顔を大切に」を基本に、全職員で意見を出し合って独自の理念を作成したことで、職員の意識が高まり、ケアの質の向上につなげられている。また、運営推進会議ではテーマを決めて情報を伝えることにより、話題が広がるが多く、活性化へ積極的な取り組みが、良い結果につながっている。一方、地域とのつきあいにおいても、着実な広がりがみられ、地道な活動により近隣との良好な関係が構築されつつある。  
平成22年度の目標達成計画については、事業所と地域とのつきあいを掲げ、事業所への理解を深めるために、町内会の回覧板に「ひなげし通信」を掲載させていただき、イベントや消防訓練のお知らせや散歩時に近隣住民への声のかけあいなどができるようになったこと。また、災害対策についても、地域住民との合同訓練の実施までには至っていないが、地元のオーナーさんが訓練に参加くださるなど、目標に向けた取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が大切にしていること、迷ったときの拠り所になるような基本的な事業所理念を全職員で意見を出して構築した。その理念は全員で共有し実践につなげている。地域であたりまえに暮らすことの大切さを理解し理念に掲げている。	全職員の思いを込めた利用者主体と笑顔を大切にす理念を作成することにより、職員の意識の向上につなげられており、寄り添う心を忘れず、利用者の気持ちを大切にしたいケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の地域、近所の方々との挨拶や夏祭り、初詣などに参加している。町内会への加入は断られたが、毎月回覧板に「ひなげし通信」を入れてもらうなどして、地域に溶け込もうとしている。	町内会の回覧板に事業所のひなげし通信を掲載させてもらったことにより、地域の方々からの声かけをもらえるようになってきている。また、避難訓練に地域の方の参加を働きかけていくことなど、今後も地域とのつきあいへの継続的な取り組みが検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	こちらからの働きかけではないが、施設見学に来た方が実は親が心配だがどうしているかわからない状態だったので、いろいろな方法がある事をわかる範囲で話した。そのような例が他にもあり、出来る限りの説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、施設の状況報告やテーマを決めて話し合いをしている。防災、地域参加の模索などは意見を活かしている。「ひなげし通信」を発行するきっかけとなりその後のアドバイスもあった。	定期的に開催され、テーマを決めて会議を進行することにより、意見交換が活発に行われている。次回の会議からは家族の参加者を増やし、家族の意見や要望を傾聴する機会を設け、事業所運営に活かしていくことも検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所介護福祉課の担当者に運営推進会議に出席して頂き、アドバイスを頂いている。障害福祉課の担当者に相談アドバイスを頂いている。	運営推進会議には市の担当者が出席し適切なアドバイスをいただいている。具体的例としてひなげし通信の内容(写真の掲載を提案)へのアドバイスを実践したことにより地域の方から事業所を身近に感じてもらえ、良い関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はアラーム等が無く通りに面していて危険な為施錠せざるをえない状況。その他は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員がリスクを軽減させる工夫をすることで、利用者の行動制限を少なくするよう取り組まれている。また、スピーチロックにも気をつけ、「否定する言葉は使わない」「～しないでください」などの張り紙もしないなどの具体的な工夫がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての事例を用いて、虐待に至る状況や心理状態を説明した。虐待が見過ごされることがないように、報告できる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する理解は低いですが、最近自立支援の方が入所し、また成年後見申請している方がいるので、制度について学び活用できるよう努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には詳しく説明し、理解・納得を得ている。改定の際は本部より書面で通知し、管理者の説明を加え理解納・得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、日常の面会時に家族の意見や要望を聴き、対応している。利用者の意見は日々の会話から汲み取るように努めている。	利用者とは、日々の生活の中で、会話やしぐさなどから意見や考えを聴き、運営推進会議や家族会等で家族からの意見・要望を聴取し、運営に反映させるよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案をカンファレンスノートに出し、それに対する意見を出し合っている。月に1度カンファレンスを開催し、意見・提案は話し合いの上、ケア、業務に反映させている。	定期的なカンファレンスでの話し合いのほか、フロア責任者へも要望や提案を伝えやすい環境が整えられており、業務を行う上での情報の共有につなげられ、ケアの質の向上に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は職員個々の努力・実績などが反映されているとは言い難い。昨年より永年勤続者の表彰を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では入職後の新人研修や身体介護や感染症対策などの社内研修を実施している。外部研修は本部が認めるものは出勤扱いで研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「戸塚・東川口エリグループホーム連絡会」で施設訪問し意見交換を行い、サービスの向上への取り組みをしている。社内他グループホームと勉強会、意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていることや不安なことがあったら遠慮なく言って下さいと話している。また言葉で表現できない方には気持ちを汲み取るように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時や電話で話す機会には毎日の状況を詳しく伝えたり、要望等には丁寧に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を把握し、良く観察し、必要としている支援を見極め本人と家族を支援する様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	世間話をしたり冗談を言ったりして常に対等で本人が安心して生活していける関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話で話す機会には毎日の状況を詳しく伝えたり、要望等には丁寧に対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力により帰宅、墓参り、美容院に行っている。毎日の会話で本人にとって大切な人や場所の話をしていくようにしている。	友人の協力により選挙の投票に出かける利用もおられ、家族といっしょに墓参りやなじみの美容院に出かけるなど、入居前のなじみの人や場との関係が途切れないよう支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話しやすいように間に入って会話を結びつけている。レクリエーションではなるべく一ヶ所にまとまって行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば本人、家族の相談に応じたいと思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を良く聴き希望、意向の把握に努め、生活歴を尊重する対応を心がけている。困難な方には家族から話を聴き、普段の様子から汲み取るように努めている。	本人が気持ちを伝えやすいような雰囲気作りを心がけ、希望や意向を把握するよう努められている。意思表示の困難な利用者は、生活歴や表情や目線等から気持ちを受け取るほか、写真やチラシなどからも、思いを把握する工夫も図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査で生活歴や馴染みの環境、生活環境などの把握に努めている。入所後も本人、家族との会話の中から情報得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム、心身の状態の把握に努め、その様子は生活記録に記入し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、サービス担当者会議で話し合いを行い、現状に即した計画を作成している。本人、家族、医師、看護師、薬剤師との話し合い、意見交換を行い介護計画に反映している。	本人の意向と、本人ができることを支援するという視点で、職員が意見を出し合い、計画を作成されている。家族、医療スタッフとの話し合い意見交換も介護計画に取り入れられ、チームケアが実践されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を生活記録に記入し、情報を共有するように努めている。その中から気づき、ケアの見直し、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々ニーズに対応して柔軟な支援を行うよう努めているが、サービスの多機能化トまではしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月市のボランティアを招いて楽しんでいる。町内の行事に参加したり近隣の清掃を手伝ったり、本人の力に合わせたかかわりが持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のいる方にはそれを優先している。かかりつけ医に受診したら診察内容、処方方の情報を施設、往診医と共有している。	かかりつけ医・協力医のどちらも選択でき、専門医への受診が必要な場合の支援も行われている。また、各医療機関との情報の共有にも努められ、利用者が的確な医療支援を受けられるよう取り組まれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回訪問看護があり、状態を伝え相談をしている。個々に適切なアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提出している。退院については家族と相談して早期退院を出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合など本人、家族と話し合いなるべく希望に添えるように、施設としての出来る範囲を説明しながら方針を共有し支援している。医療との連携が課題になっている。	入居時に重度化や終末期への事業所の方針を説明されている。さらに重度化が進んだ時は、利用者・家族の意向を汲み取り、医療機関との連携も図りながら、話し合いも繰り返し、できるだけ支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救命講習を受けている。応急手当や初期対応のマニュアルを配布し熟読している。定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施し、通報・初期消火・避難誘導の訓練を行っている。火災に関する点検は表を作りチェックしている。地震、水害などの災害マニュアルを新しくした。地域との協力体制を築くよう努めている。	定期的な防災訓練を行うほか、運営推進会議で、防災をテーマにした話し合いも行われている。非常時の備蓄の取り扱いを再点検し、災害マニュアルの更新などにより職員の防災意識を高め、対策の強化に努められている。	災害発生時の地域住民の協力は不可欠であり、その体制作りのため、消防署とも連携し、近隣住民との合同避難訓練を行うなど地域との協力体制などを構築されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応をする様に、入職時、新人教育で学んでいる。不適切な対応があるときは、その都度、またケアカンファ等で注意している。	親近感を持ちながら個々の人格を尊重した対応を心がけている。居室への入室時は「入ります」と声かけをしており、排泄時や入浴時にも、利用者の安全に配慮しながら、プライバシーの確保にも努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話をたくさんする事により、話しやすい雰囲気作りに努めている。個々の思いを汲み取るように努めている反面、職員主導になる向きもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの1日の生活リズムを頭に入れペースに合わせた支援に努めている。職員の都合が優先する事のない様ケアカンファなどで話し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は2ヶ月に1度理容師が来ている。また家族と美容院に出かける方もいる。起床時には整髪、髭剃り、汚れに気づいた時には着替えるなど気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が同じ献立を同じテーブルで会話しながら食べている。好き嫌いにも配慮している。個々のペースで食べられる様にしている。片付けをしてくれる方もいる。	利用者と職員が同じテーブルで一緒に同じものを食べ、会話を楽しみながら食事の時間を過ごされている。利用者の希望・能力に応じた食後の片づけをやっていたり、食事が楽しくなるような様々な支援が行われている。	食事は利用者にとっての楽しみであるほか、家族にとっても関心の高いことであることから、家族へのメニューの配布や試食会の開催などにより、家族との理解が深まるような取り組みなどに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は専門業者の献立により、半調理で来るため栄養バランス、味付けは良い。食事形態は現況に応じてミキサー、刻み、などで提供している。水分量はその都度記載し、少ない方が摂取できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず実施している。個々に合わせて声かけや介助などで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるよう、一人一人の排泄パターンを把握し声かけや誘導により支援している。	「できない」と決めつけることなく、本人の体調や能力・希望により、トイレでの排泄への誘導や声かけを行い、できるだけおむつ使用を減らし、自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取するように努めている。朝のラジオ体操やレクリエーションで身体を動かす事により予防に努めている。しかし便秘の酷い時は薬により対処している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常は午後2時頃から入浴時間になっているが便失禁の時等はその限りではない。入浴にこだわりの有る方や状態によっては多く入れるようにしている。入浴剤を使用したり個人のシャンプーを用意するなど個々にそった支援をしている。	曜日を固定せず、利用者一人ひとりの希望に沿えるよう配慮がなされている。入浴中はリラックスした会話や歌を唄う利用者もあり、入浴が楽しくなるような支援を心がけている。	身体機能の低下により浴槽に入れず、シャワー対応の利用者もいることから、本人の健康維持と入浴時の安全管理の面からも、安全な入浴が確保できるなどの検討を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調により食後に臥床をしている。散歩やレクリエーションをする事で安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は飲み込みが悪くなっている方が多くかなり注意を払っている。薬の変更時は内科往診記録、申し送りなどで知らせ様子観察に努めている。薬の目的や副作用まで理解しているとは言い難い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いなどは得意とし、できる事をやっている。レクリエーションや散歩をしている。月に1度ほどボランティアを招き一緒に歌や踊りを楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良く職員が確保できる日は散歩を推奨している。今年は花見、夏祭りに参加した。家族、友人の協力では選挙に行く、帰宅するなどがある。帰宅に関しては安全に出来るよう注意を払い支援している。	近所への散歩は職員と一対一で出かけるなどの支援がなされている。また、普段外出したがない利用者も、夏祭りに車で送迎し、楽しんでいただくなど工夫も図られている。家族や友人の協力で、本人の希望に沿った外出ができるよう支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理している。小額のお金を持っている方もいる。買い物に行く事もあるが、支払は預かり金で職員がしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば居室で本人自ら電話できるよう支援している。手紙は希望が無い為受けるのみとなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は落ち着いた雰囲気になっている。フロアに花や観葉植物を置いている。音楽やテレビは自由に選択できるように配慮している。	日中は共有部分で過ごす利用者が多いことから、落ち着いた雰囲気作りを心がけている。また、職員が花を持ち込み、利用者が水をあげたり、廊下にカレンダーや写真を貼るなど居心地の良い共用空間作りに取り組まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席位置を工夫し利用者同士のトラブルを防ぎ安心してフロアで過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差があるが、使い慣れた時計や枕、テレビ等を置き、心地よく過ごしていただいている。家族との写真や作品を壁に飾るなどもしている。	使い慣れた家具を置いたり、家族との写真を枕元に飾ったり、自分が創作した作品を室内に飾るなど、一人ひとりの生活習慣や好みを反映できるような居室づくりへの支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、トイレなど手すりやバーを設置している。キッチン是对面式で見守りながら作業ができ、安全に生活が送れる工夫をしている。テレビ、DCはすぐに使用できる状態にしてある。		

(別紙4(2))

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ひなげし

作成日: 平成 24年 1月 10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	職員の防災意識が不十分。 職員の入れ替わりの為徹底しない。 地域との連携がとれていない。	防災訓練の充実。 地域との関係強化。 防災訓練に地域住民の参加。	自主訓練の回数を年間2~3回に増やす。 地域住民代表として運営推進会議に参加している 民生委員の皆様にも防災訓練に参加してもらい、その重要性を認識する。地域に参加を呼びかける。	6ヶ月
2	45	浴槽に入れずシャワー浴のみの利用者が多くなっている。	特に冬場は浴槽に入れるように支援する。 入浴の機会を増やす。	体重が軽い利用者は職員がそろっていれば2人で浴槽に入れる。体重が重い利用者にも入れるよう、機具などの購入も含めて本部に相談する。1日何人、と決めずに対応できる日をシフトの調整で作っていく。	6ヶ月
3	40	家族に食事について知って貰う努力をしていない。メニューは食材会社任せになっている。	家族へ食事についてお知らせする。 家族が試食できる機会を企画をする。 メニューについての提案をする。	家族に月に1度1週間分程度のメニュー表を配布する。家族が食事の試食ができる日を設ける。 食材会社にメニューなどについて積極的に提案していく。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。